

高等部教育目標	
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う	
探究型カリキュラム教育/学習目標	
SDGs の達成を目指し、Mastery for Service を体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける	
探究型カリキュラムにおける 5 つの学びの方針 Five Principles for Learning	
1. 自分事として 2. 社会/実践を通して 3. 知識を大事に 4. ミニケーションを通して 5. 生徒・教員が共に <オーナーシップ/一人称> <PBL 型/アクション> <自ら得る知識/高める関心> <自分/他者のやりとり> <共に探究する関係性>	
ハンズオンラーニング/ピーススタディの学習目標	
現場で学び、社会的課題への当事者意識を育む 1. 「平和」に関わる様々な社会的課題について、自分の見解を自分の言葉で述べるができるようになる。 2. 「戦争」と「エネルギー問題」という世界が抱える社会的課題を自分事として捉えようとする姿勢を養う。 3. 社会的課題を解決するアクションを起こすことができる。	

授業日	4/12(火)	1 学期授業回数	1 回目 / 全 9 回
学習目標	2 年生 3 学期からの流れを復習し、今学期の学習の始まりを確認する。		
時間 授業内容	50 分	・「⇔戦争」、「≡便利」の 2 つのグループに分かれ、1 年間の学びを復習する発表準備を行う。 ・発表についての質疑応答を行う。 40 分 ・「平和」の定義を構築する。今まで便宜上「⇔戦争」、「≡便利」と分けていたものを、1 年間の学びを活かして統合する。	
	40 分		
評価方法	無し。		
宿題指示	学びの記録。		

授業日	4/19(火)	1 学期授業回数	2 回目 / 全 9 回
学習目標	1 年間の学びを活かして「平和」の定義を構築する。		
時間 授業内容	90 分	・ 前回の学びの記録を共有する。それぞれが「平和」の概念について調べた事柄を共有し、それぞれのアイデアを知る。 ・ 前回の学びの記録の共有を基に、前回に続いて「平和」の定義を構築する。	
評価方法	学びの記録。		
宿題指示	エネルギー問題について、次のアクションについて素案を考える。ロイロで提出。		

授業日	4/26(火)	1 学期授業回数	3 回目 / 全 9 回
学習目標	戦時下における関西学院の対応		
時間 授業内容	45 分 35 分	<ul style="list-style-type: none"> ・文部省訓令第 12 号への対応から戦時下の御真影教育勅語の受け入れまでの関西学院の流れ ・戦時下で国・文部省の指導を拒否した独立学園、戦後に戦争責任を表明した明治学院の紹 	

評価方法	学びの記録
宿題指示	学びの記録

授業日	5/10(火)	1 学期授業回数	4 回目 / 全 9 回
学習目標	フィールドワークの計画立案		
時間	90 分	最終的な学びの目標を設定し、それに必要なフィールドワークを計画する。	
授業内容		そのフィールドワークに必要な事前研修を計画する。	
評価方法	学びの記録		
宿題指示	学びの記録		

授業日	5/24(火)	1 学期授業回数	5 回目 / 全 9 回
学習目標	戦争参加者の心理状態を知る/ロシアのウクライナ侵攻と旧日本軍の中国大陆侵攻の類似点を探る		
時間	15 分	戦時下の関西学院の補足(戦争責任を自覚した初代新制高等部長河辺満甕)	
授業内容	55 分	「戦争と罪責」の簡単な内容説明と戦争体験者 8 人から一人を選んでその聞き取り内容を熟読し内容をまとめる	
	20 分	日本史教科書(山川出版)から現在のロシアによるウクライナ侵攻と旧日本軍の日中戦争時のふるまいの類似点を探す	
評価方法	戦争体験者の聞き取りの内容報告、学びの記録		
宿題指示	戦争体験者の聞き取りの内容報告、学びの記録		

授業日	5/31(火)	1 学期授業回数	6 回目 / 全 9 回
学習目標	フィールドワークの計画立案		
時間 授業内容	90 分	原子力文化財団主催の課題研究活動支援事業への申し込みを検討する。 最終的な学びの目標を設定し、それに必要なフィールドワークを計画する。 そのフィールドワークに必要な事前研修を計画する。	
評価方法	学びの記録		
宿題指示	学びの記録		

授業日	6/7(火)	1 学期授業回数	7 回目 / 全 9 回
学習目標	フィールドワークの計画立案		
時間 授業内容	90 分	これまでの授業のフローの確認。また、そこから学びのキーワードとして（原発労働者が） 「生きる」ということに焦点を当てる。 キーワードを基にトピックを整理し、役割分担をして申請書類の完成を計画する。	
評価方法	学びの記録		
宿題指示	学びの記録		

授業日	6/21(火)	1 学期授業回数	8 回目 / 全 9 回
学習目標	戦争加害者の心の動きの例を具体的に理解し、他の例の報告も参考にして今後の学びのきっかけをつかむ		
時間	30 分(@5 分)	戦争体験者 8 人のうちの割り当てられた分を解説し、自分の考察も発表し質問を受ける 尾城から簡単な総括	
授業内容	5 分		
評価方法	各自のテーマはレポート内容を、他者の発表への応答は学びの記録をループリックに基づいて評価する		
宿題指示	ロシアのウクライナ侵攻と過去の戦争の歴史(特に日中戦争時の日本)の関連でテーマを個別に提示しレポートで提出		

授業日	6/28(火)	1 学期授業回数	9 回目 / 全 9 回
学習目標	1 学期に平和に関する学びについて簡単に振り返りウクライナと過去の歴史についてのレポートの準備をする		
時間	5 分	学びの記録の返却	
授業内容	10 分	6/27 の全校礼拝での発表を振り返る。発表者和其他の者の分かち合い	
	10 分	課題レポートに取り掛かる前に、探究の仕方についての解説	
	30 分	図書館に移動して、テーマに関して担当者(尾城)と個別に話し合う	
評価方法			
宿題指示	ロシアのウクライナ侵攻と過去の戦争の歴史(特に日中戦争時の日本)に関するレポート(〆切 7/11)		

高等部教育目標

イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う

探究型カリキュラム教育/学習目標

SDGs の達成を目指し、Mastery for Service を体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける

探究型カリキュラムにおける 5 つの学びの方針 Five Principles for Learning

1. 自分事として 2. 社会/実践を通して 3. 知識を大事に 4. コミュニケーションを通して 5. 生徒・教員が共に
 <オーナーシップ/一人称> <PBL 型/アクション> <自ら得る知識/高める関心> <自分/他者のやりとり> <共に探究する関係性>

ハンズ・オン・ラーニング/ピーススタディの学習目標

現場で学び、社会的課題への当事者意識を育む

1. 「平和」に関わる様々な社会的課題について、自分の見解を自分の言葉で述べるようになる。
2. 「戦争」と「エネルギー問題」という世界が抱える社会的課題を自分事として捉えようとする姿勢を養う。
3. 社会的課題を解決するアクションを起こすことができる。

授業日	9/6(火)	2 学期授業回数	1 回目 / 全 9 回
学習目標	2 学期の予定を確認し、2 年間の学びを踏まえた成果の出し方を考え始める		
時間	45 分	課題研究(原発)	
授業内容	45 分	コミュニケーション英語の教科書(第一学習社)を訳しながら近藤紘子さんを紹介	
評価方法			
宿題指示	「ヒロシマ」(Jhon Hersey)の谷本氏に関する抜粋を下読み		

授業日	9/20(火)	2 学期授業回数	2 回目 / 全 9 回
学習目標			
時間	45 分	課題研究(原発)	
授業内容	20 分	原爆に関する基本的な知識と投下前後の広島を歴史を辿る	
	20 分	宿題を用いて、原爆投下直後の広島を谷本清氏に関する記録から見る	
評価方法			
宿題指示	レポート形式		

授業日	9/27(火)	2 学期授業回数	3 回目 / 全 9 回
学習目標	近藤紘子さんのお話を聞き感じたことを言葉にする		
時間	60 分	近藤さんの講演	
授業内容	30 分	質疑応答	
評価方法			
宿題指示	レポート形式		

授業日	10/4(火)	2 学期授業回数	4 回目 / 全 9 回
学習目標	課題研究に関する全校調査の詳細確認。近藤紘子さんの講演の分かち合いから互いに学ぶ。		
時間	45 分	近藤さんの講演に対する互いの感想を分かち合い。意見を交換する。	
授業内容	45 分	アンケートの対象の分類や質問内容の整理	
評価方法	学びの記録		
宿題指示			

授業日	10/18(火)	2 学期授業回数	5 回目 / 全 9 回
学習目標	課題研究に関する全校調査の詳細確認。近藤紘子のお話から「人道的であること」について対話を実践する		
時間	65 分	生徒がファシリテーターとなり、戦争に対して人道的であるとはどういうことかを自由に対話	
授業内容	25 分	25 日に実施する全校調査の準備	
評価方法	学びの記録		
宿題指示	次回の対話に関する資料を読んでおく		

授業日	10/25(火)	2 学期授業回数	6 回目 / 全 9 回
学習目標	課題研究に関する全校調査の最終確認。被害者側からの「ゆるし」について対話を実践する。		
時間	65 分	生徒がファシリテーターとなり、被害者が加害者をゆるすとはどういうことかを自由に対話 当日の終礼で実施する全校調査の最終確認	
授業内容	25 分		
評価方法	学びの記録		
宿題指示			

授業日	11/8(火)	2 学期授業回数	7 回目 / 全 9 回
学習目標	原発に関する意識調査を自分たちで執り行う。		
時間	45 分	アンケートの確認と終礼での配信の段取り	
授業内容	45 分	アンケート後のディスカッションの確認	
評価方法	なし		
宿題指示			

授業日	11/22(火)	2 学期授業回数	8 回目 / 全 9 回
学習目標	原発に関する意識調査の結果を読み取る。		
時間	90 分	質問項目ごとにチームに分けてデータ分析	
授業内容			
評価方法	なし		
宿題指示	各チームで引き続きデータを読み込む。		

授業日	11/29(火)	2 学期授業回数	9 回目 / 全 9 回
-----	----------	----------	--------------

学習目標	原発に関する意識調査の発表に向けての内容を構成する	
時間	80 分	データから読み取れることを模索
授業内容	10 分	東京大学での発表の手順の確認
評価方法	なし	
宿題指示	なし	